

(府民向け・支援者向け) 普及啓発及び人材育成の方向性について

普及啓発、人材育成の方向性 (案)

対象者・内容		方法		R4 規模	R5 規模	R6 規模	目標	分析手法
基礎研修 (対象者別)	市町村担当職員研修...高次脳機能障がい基礎知識、障がい特性を踏まえ個別性の高いケース毎にどのような福祉サービスで地域生活を支えるか、役所内での他部署との連携の必要性について学ぶ。	実施時期:5月頃 (補装具・更生医療の研修と同時期に実施) 40分~1時間程度のWeb研修		90	90	90	障がい特性や生きづらさ等大変な状況を理解した上で、多分野と連携しながら、必要なサービスの決定等の支援を行えるようにする。また管轄内の相談・支援体制を確認・把握し、必要な支援を開拓できるようにする。 高次脳機能障がいは高度な支援が必要と誤解している事業所があるため、障がい特性について正しく理解してもらい、安心して各事業所で受け入れてもらえるようにする。また、高次脳機能障がい特有のアセスメントや対応のポイントについて学び、高次脳機能障がいのある方に合った支援を組み立てられるようにする。 高次脳機能障がいの特性のひとつに障がい認識の困難さがあるため、必要な支援・サービスにつながりにくい。そうした、高次脳機能障がいのある方の特性や生きづらさといった大変な状況を理解した上で、受援力を引き出し、必要な支援・サービスにつながる相談支援を行えるようにする。 地域で暮らす高次脳機能障がいのある方が必要とする医療面における支援や会福祉サービス利用等に必要診断書作成について理解して頂き、各医療機関の専門性を活かしながら、他機関や福祉とも連携をとり、支援にあたって頂けるようにする。 圏域で連携してうまくいった事例をとりあげたり、希望者には、高次脳のある方をよく受け入れている事業所への体験実習を行い、支援の実際を学ぶなどして、よりよい連携がとれるようにしていく。	各研修の受講者の地域(市町村)ごと内訳を地域内人口で割り、市町村ごとの現状分析を行う。(市町村職員の対応能力、対応できる事業所の多寡等)事業所別割合についても分析する。
	地域支援者養成研修...地域の事業所で直接支援をしている支援者が実践例を学んだり、個々の状態に応じた支援が組み立てられるようなスキルを学ぶ。	共通して学んでほしい基礎知識は、Web研修にて実施	実施時期:9月頃 半日程度の講義・演習	70	70	70		
	相談支援従事者向け研修...身近な地域で高次脳機能障がいの方がその人らしい生活を送れるよう、高次脳機能障がいの特性をふまえた支援会議等の実施、多職種連携の取り組み、資源の改善・開発の取り組み等を学ぶ。		実施時期:9月頃 半日程度の講義・演習	70	70	70		
	医療機関職員向け研修...高次脳機能障がいの支援に必要な情報の提供に関する重要性や、医療と福祉機関でのリハビリテーションの違いや障がい福祉分野の支援者との連携について学ぶ。	実施時期:2月頃 2時間程度のWeb研修		90	90	90		
実践研修(地域別)...二次医療圏域毎に、多職種(医療・福祉・介護・行政)が連携した取り組み等について講義・演習により学び、地域のネットワークづくりにつなげる。	実施時期:11月頃 2時間半程度の講義・演習 ★毎年、2~3圏域ずつ開催する ★高次脳のある方をよく受け入れている事業所への体験実習を希望者に実施		35	35	35			
普及啓発	実施時期:2月頃 イオンモールにてイベント実施		実施場所をそろえる	600	600	600	府民への周知	府Qネット
	普及啓発動画コンテンツ作成 (対象者ごとに分けて作成)			-	-	-		
	実施時期:12月頃 リハビリテーション講習会 (府が実行委員として参画)			300	300	300		

(府民向け・支援者向け) 普及啓発及び人材育成の方向性について

- ・地域のネットワーク形成及び効果的啓発という観点から、2枚目表のとおり実施
- ・各事業実施と並行して、年度毎に認知度を測り、人材養成におけるエリア及び事業所ごとの状況分析及び普及啓発の成果分析を行う。
- ・府において二次医療圏域毎に研修を実施し、圏域ネットワークにおける連携づくりにも寄与。
- ・動画コンテンツの中身や種類は、医療関係者や行政等合同によるWGを立ち上げて検討。
- ・ほか普及啓発及び人材養成の事業については継続。
(新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を注視のうえ)

**→新規事業案及び継続予定事業についての御意見を
お願いいたします。(啓発手段・分析手法の提案等)**